

2009年6月12日

株式会社 富士キメラ総研
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 2-5 F・Kビル
 TEL.03-3664-5839 FAX.03-3661-1414
 URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
 URL: <http://www.fcr.co.jp/>
 広報部 03-3664-5697

世界のストレージ市場の調査を実施

動画共有サイト、地図サービス、動画配信などの利用増からエンタープライズストレージ市場が拡大
 2014年に08年比33.1%増の1億3,675万台と予測
 2011年にブルーレイレコーダがDVDレコーダを逆転
 2014年のストレージ市場トータルは08年比16.2%減の7兆1,099億円と予測

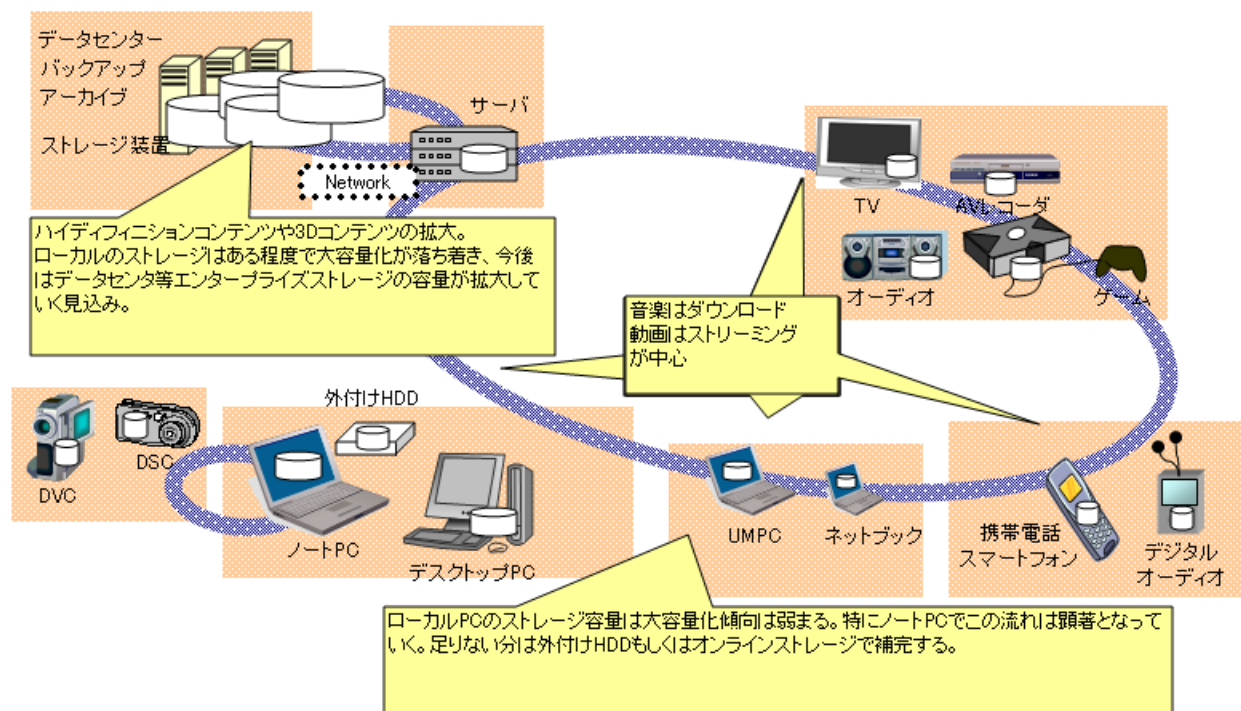
マーケティング&コンサルティングの株式会社富士キメラ総研（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中一志 03-3664-5839）は、ストレージドライブとそれに関連するメディア/デバイス/マテリアルに焦点を当て、生産ベースにおける世界市場を調査分析した。また、PC分野、Non-PC分野、エンタープライズストレージ各分野のストレージの将来像を予測し、それに関連する各デバイス市場動向及び技術動向を総括した。その結果を報告書「2009 ストレージ関連市場総調査」にまとめた。

インターネット（ブロードバンド）やデジタル放送の普及拡大に伴い、コンテンツの大容量化が進み、サーバ・データセンタや端末側のPCをはじめとするデジタル機器の取り扱うデジタルデータが大容量化している。インターネットやデジタルコンテンツの普及は、2000年以降、PCや各デジタル機器に搭載されるストレージを大容量化する原動力となっている。一方、YouTubeを代表とするストリーミング型ネット動画のコンテンツも飛躍的に拡大しており、各機器にコンテンツを保存せず、サーバへアクセスするだけで動画が楽しめる環境も整いつつある。パッケージソフトにおいてもBlu-ray Discによる映画コンテンツの販売・レンタルが開始されるなど、先端技術を用いたソフト販売が本格化しつつある。一方、予めコンテンツが同梱されたメモリーカードやUSBメモリが販売されるなど、新たなメディアを利用したコンテンツ販売の動きも出始めている。

<注目市場>

エンタープライズストレージ（企業向けITシステムにおけるストレージ装置）市場

2008年	2009年見込	前年比	2014年予測	2008年比
1億277万台	1億532万台	102.5%	1億3,675万台	133.1%



エンタープライズストレージはサーバ、ディスクアレイ装置、テープライブラリが対象となる。アプリケーションの特性によって HDD、磁気テープ装置、SSD (Solid State Drive)、光ディスクドライブなどのストレージデバイスが棲み分けられ、あるいは組み合わせられて搭載されている。

SSD は、最大の特徴である IOPS (Input Output Per Second : 1 秒間に実行可能な命令の数) 能力の高さを活かし、SSD メーカーがエンタープライズ向けに提案を行ってきた経緯があり、2008 年に市場が立ち上がった。Tier0 は特に金融系システムなどのファイルアクセスに一秒一刻を争うシステムで需要が大きい。

エンタープライズストレージにおけるストレージデバイスの需要を見ると、Tier3 と呼ばれるバックアップ中心の市場では磁気テープが主力であるが、徐々に SATA HDD に侵食されている。Tier2 と呼ばれるニアライン中心の市場では、エンタープライズクラスの信頼性を持つディスクの中でも容量単価が低い SATA HDD がメインとなっている。今後、一部の用途では消費電力や発熱量削減の観点で 3.5" (インチ) 型から 2.5" 型へのシフトが進むと予測される。Tier1 と呼ばれる高い信頼性と高速処理が求められるミッションクリティカル中心の市場では、SAS/FC 15/10Krpm HDD がメインとなっている。こちらでも今後、一部の用途では消費電力や発熱量削減の観点で 3.5" 型から 2.5" 型へのシフトが進むと予測される。Tier0 は Tier1 のキャッシュ的なアプリケーションである。高い IOPS 能力が求められ、今後 SSD が活用されていく。

今後も世界的に IT 環境が拡大し、エンタープライズストレージに対する容量需要は更に拡大していく見込である。特に、動画共有サイトや地図サービス、動画配信などが発展する見込であり、ニアラインストレージの容量需要は飛躍的に拡大すると予測される。

ニアライン: 高速アクセスが要求されるオンラインストレージとデータの長期保存を目的とするオフラインストレージの中間に位置し、アクセス頻度は低い即時アクセスが求められるストレージシステム

AV Player 市場

2008 年の DVD Player 市場は、数量ベースで 1 億 6,850 万台 (前年比 3.0% 減)、金額ベースでは 6,830 億円 (同 8.2% 減) となった。欧米や日本での Blu-ray Disc (以下、BD) へのシフトが見られるが、DVD Player への影響が顕在化するのには BD Player の価格競争力が強まる 2010 年以降と考える。2009 年の減少見込みは、あくまで世界不況によるものである。

BD Player 市場は、数量ベースで前年比 634.4% 増の 470 万台、金額ベースでは同 181.3% 増の 1,128 億円市場となった。2008 年 2 月の東芝の HD DVD からの撤退発表によって、事実上、大容量 DVD の統一規格となった BD 市場は勢いを増した。北京オリンピック商戦を見込み、BD Player 市場も躍進が期待されたが、秋以降の世界同時不況の深刻化や、機器の低価格化が充分ではなかったこともあり、500 万台には到達しなかった。2009 年は、HD 解像度のテレビの低価格化と合わせて BD Player の価格も DVD に対して競争力のあるレベル (実売 2.5 ~ 1.5 万円) に到達しており、1,200 万台が見込まれる。2010 年以降も順調な市場拡大が期待されており、DVD Player を超える規模にはならないものの、先進国中心にシフトが進むと予測される。

AV Recorder 市場

2008 年の DVD Recorder 市場は、数量ベースで前年比 25.9% 減の 1,170 万台、金額ベースで同 29.9% 減の 3,381 億円となった。日本では大容量 DVD が BD へ規格統一されたことから BD へのシフトが始まっている。DVD Recorder は機器の低価格化による需要喚起も期待されたが、前年に続き大きく市場を縮小した。HDD 単体機がメインであったが、DVD パッケージメディアの視聴も可能で、場合によっては DVD にも録画できる、という多機能な使い勝手の良さに加え、低価格化によって HDD 単体機との値差が縮まったことで、欧州市場でも認められ始めている。2010 年以降は BD へのシフトが本格化し始め、日本市場がいち早く BD 化し、欧州、北米も経済環境の回復とともに 2011 年頃には BD シフトが顕在化すると予測する。

BD Recorder 市場は、数量ベースで前年比 788.9% 増の 160 万台、金額ベースでは同 536.4% 増の 1,400 億円となった。2008 年は規格統一により消費者の買い控え懸念が無くなり、さらにオリンピックイヤーであったことで大幅な需要増が期待された。2008 年 10 月以降は世界不況が深刻化し、年末商戦に打撃を与えたものの、日本中心に成長を遂げた。2009 年は世界不況の只中にあるが、数量ベースで前年比 75.0% 増の 280 万台が見込まれる。日系メーカーは、日本国内向けの DVD Recorder の販売を BD へと積極的に切り替える戦略を採っている。そのため 2009 年は日本市場の販売が殆どを占める見込みである。2010 年以降は、北米や欧州の経済環境が回復し始めると予測し、2011 年、2012 年頃から海外需要が本格的に立ち上がると予測する。海外での需要を獲得する為には、機器の十分な低価格化が必須である。2010 年には金額ベースで、2011 年には数量ベースでも BD Recorder が DVD Recorder を上回ると予測される。

SSD 市場

2008年	2009年見込	前年比	2014年予測	2008年比
1,102億円	1,496億円	135.8%	5,380億円	488.2%

2008年は4~16GB SSDを搭載したネットブックPCがヒットし、SSD市場は急拡大した。また、ソニーや東芝、アップルなどの大手PCメーカーが主力機種にもSSDの標準・オプション搭載を開始している。台数、容量ともにノートPC向けが需要を牽引すると予測される。今後、250GB近辺以下の比較的低容量帯でHDDからのリプレイスが起ころの見込である。デスクトップPCでも低消費電力モデルでの搭載が徐々に拡大する見通しである。エンタープライズストレージ向けSSDは高いIOPS能力が求められる領域での採用が徐々に始まる見通しである。現状では73GBと146GBが採用されているが、今後の低価格化次第では300GB SAS製品や500GB SATA製品も製品化される見込である。ノートPC、デスクトップPC、エンタープライズ向け高性能SSDが市場を牽引し年率20%前後で市場は拡大していくと予測される。

<調査結果の概要>

ストレージ(12品目)世界市場

2008年	2009年見込	前年比	2014年予測	2008年比
8兆4,837億円	7兆5,094億円	88.5%	7兆1,099億円	83.8%

調査対象ドライブ12品目の2008年の合計市場規模は、前年比6.2%減の8兆4,837億円となった。また、2009年は同11.5%減の7兆5,094億円と見込まれる。PC用ODD(Optical Disc Drive)では、2009年を最後にCDは消滅、一定の需要を残すDVD-ROM以外は記録型DVDに集約しつつ、一部でBD化する。AV用光ディスク機器は、CD Playerは年率10%前後の縮小、DVD Playerも同様である。DVD Recorder需要の大幅な減少とBDシフトによって減少幅が大きくなり始めている。金額ベースでのBDとDVD系との市場規模の逆転は、Recorderで2010年に起こると予測する。Playerは、ポータブルや車載などにも展開するDVD市場を、2014年までにBDが越えることは不可能とみられる。2008年には4~16GB SSDを搭載したネットブックPCがヒットし、SSD市場は急拡大した。HDDでは、年々単価の下落が起きているものの、大容量化が進んでいるため金額ベースでは横ばいから微減程度で推移していくと考えられる。

<調査対象>

アプリケーション	17品目	コンテンツ、サービス、エレクトロニクス機器など
ドライブ	16品目	CD系、DVD系、Blu-ray Disc Drive、HDD、SSDなど
メディア	14品目	CD系、DVD系、ハードディスク、メモリーカード、磁気テープなど
デバイス/マテリアル	15品目	光ピックアップ、半導体レーザ、ハードディスクサブストレートなど

<調査期間>

2009年4月~5月

<調査方法>

富士キメラ総研専門調査員による調査対象・関連企業に対してのヒアリング取材及び富士キメラ総研社内データベースの活用による調査・分析

以上

資料タイトル:「2009 ストレージ関連市場総調査」

体 裁 : A4判 346頁

価 格 : 97,000円(税込み101,850円)

調査・編集 : 株式会社 富士キメラ総研 研究開発本部 第一研究開発部門

TEL:03-3664-5815 FAX:03-3661-5134

発 行 所 : 株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5839(代) FAX 03-3661-1414 e-mail:info@fcr.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

URL:<http://www.fcr.co.jp/>